

こもろ山城まつぷ

長野県 小諸市

小諸の山城

小諸は関東と甲州北信濃をつなぐ地点にあり、古くから物資の流通や軍事上の要衝でした。

戦国時代の中ごろになると、甲斐から信濃に攻め込んできた武田信玄が小諸を押さえます。当時、北信濃・川中島で上杉氏と対立していた武田氏は、小諸城を北信濃侵攻の拠点とし、付近にあった山城(支城)と共に守りを固めました。

当時の緊張感や土のみで構築された岩や城の防御の仕組みをじかに見て、往時に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

山城めぐり心得

- 一、山城は、地元のみさんの善意と協力で見学できます。
- 二、山城は、貴重な文化財です。遺構を壊さないように。
- 三、山城周辺には、車を駐車できないことも多く、決して迷惑駐車とならないように。
- 四、山城周辺の民家や田畑、止め山には立ち入らないこと。
- 五、地元のみさんへの配慮と感謝を忘れずに。

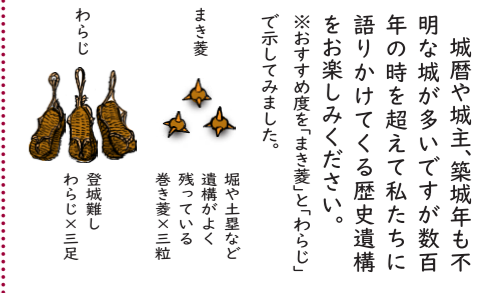
▼楽巖寺城跡(堀と土塁)



山城めぐりの楽しみ方

山城は、戦乱の世に生き残った人々が、その生命財産を守るために築城し利用しました。小諸にもかつての山城が数多く残されています。

多くは戦国時代に小諸城と連携して地域を守る国衆の拠点として、あるいは小諸城を拠点とする支城として、機能しました。

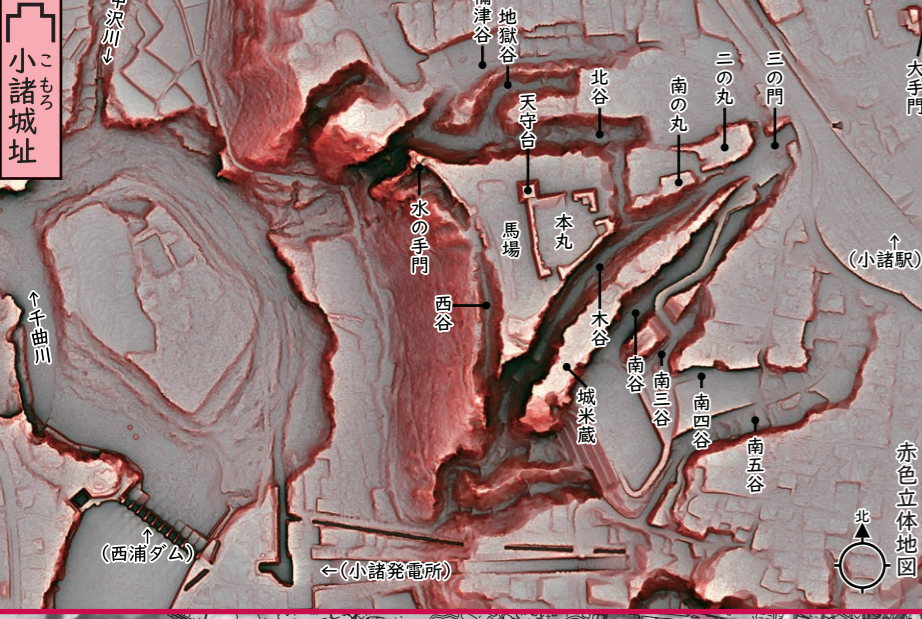
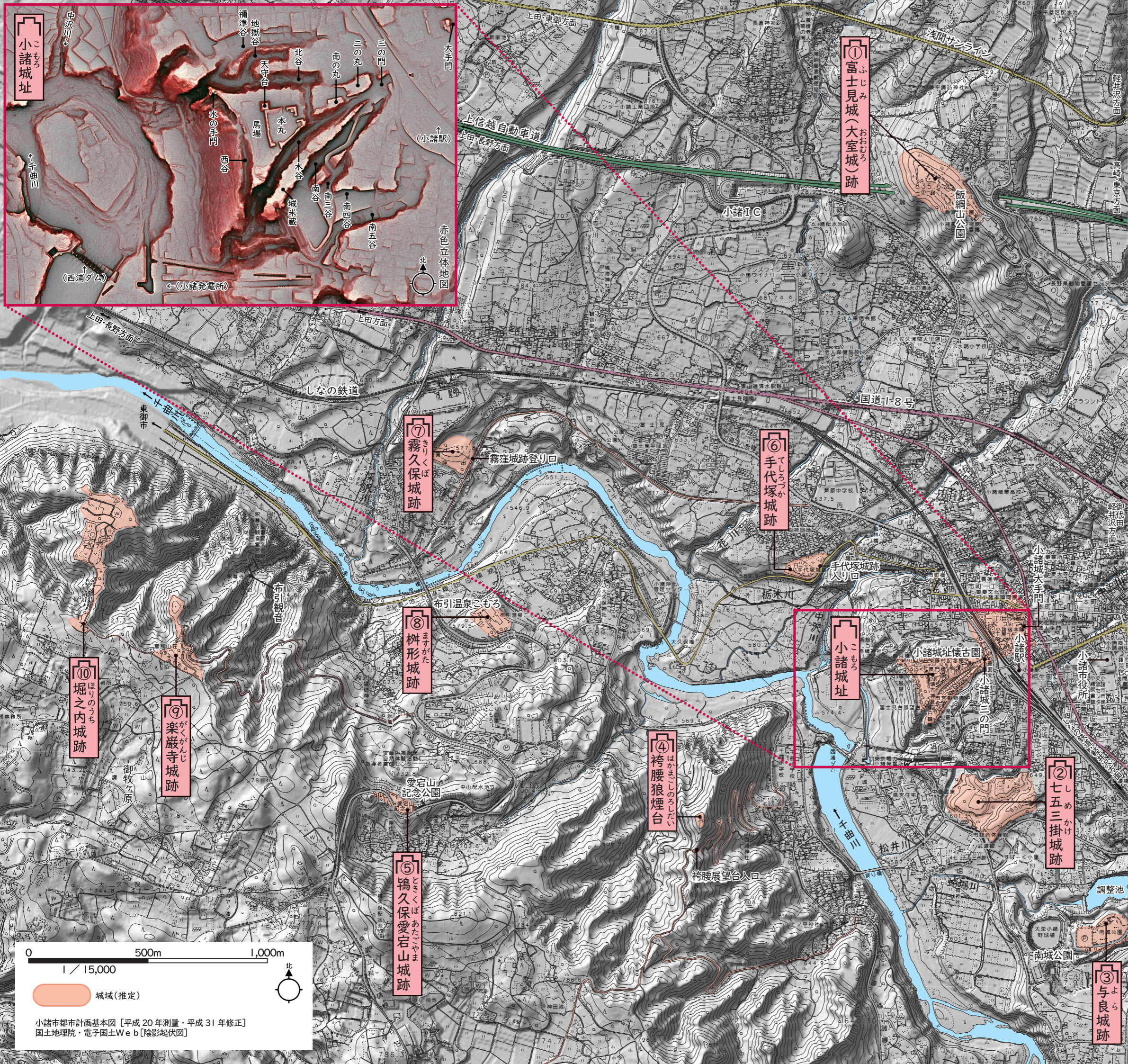


城郭鳥瞰図：宮坂武男著『戎光祥出版』
 参考資料：信濃の山城と館(第一巻、佐久編)
 宮坂武男著『戎光祥出版』
 (長野県立歴史館収蔵・提供)
 (アジア航測株式会社提供)

〈お問い合わせ〉
 一般社団法人こもろ観光局
 電話 0267-12211234
 ファックス0267-14619077
 〒384-0031
 長野県小諸市大手一丁目六一六
 電子メール info@komoro-tour.jp

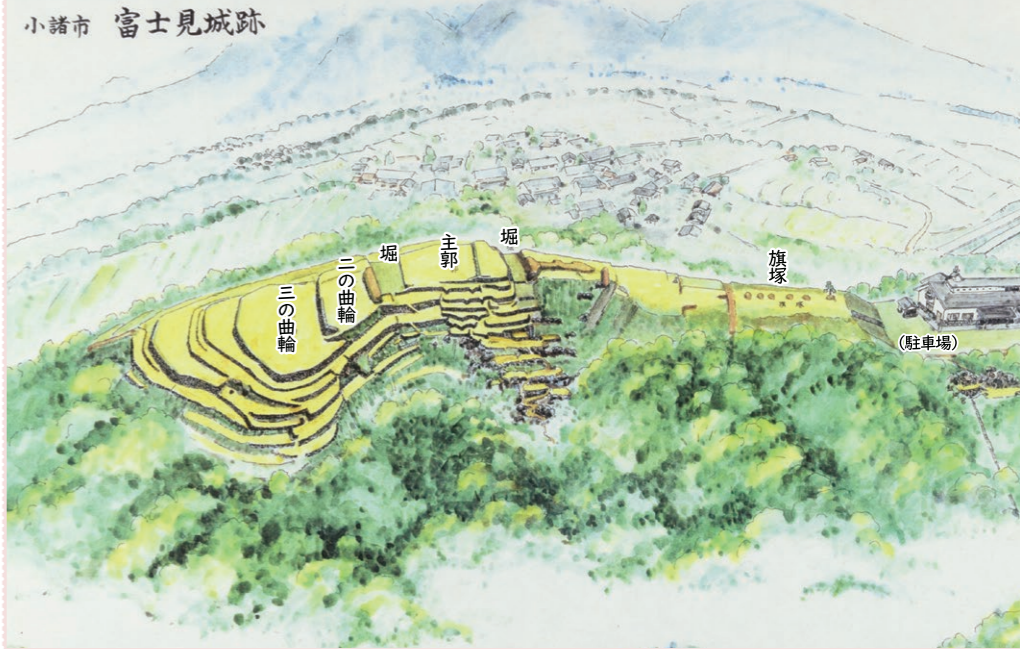


https://www.komoro-tour.jp/



0 500m 1,000m
 1 / 15,000
 北
 城域(推定)

小諸市都市計画基本図 [平成20年測量・平成31年修正]
 国土地理院・電子国土Web [陰影起伏図]



① 富士見城(大室城)跡
標高八三五・五五尺
比高一四五尺(水明小学校より)
《見どころ・石垣・空堀・段曲輪虎口・眺望》

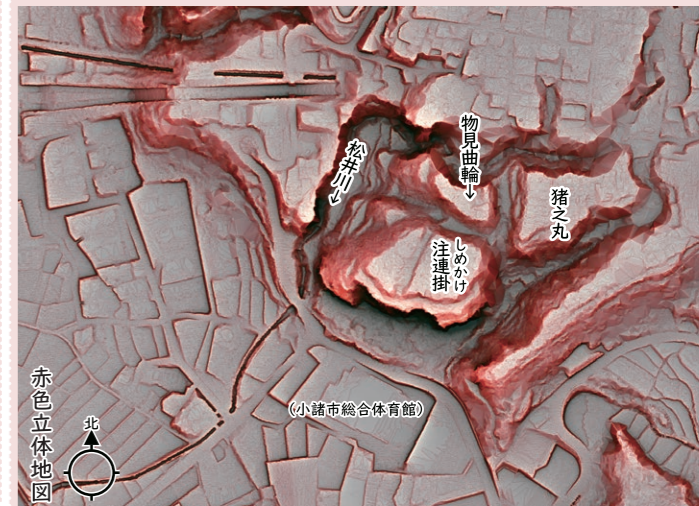
飯綱山公園が主な城域となります。鍋蓋城(小諸城の前身)の支城として築城され、境目の城砦として利用されたといわれます。無数の段曲輪に配された石垣が見事です。西は上田、南は甲州方面を見渡せるパノラマ展望で、富士山も眺望できます。



② しめかけ七三掛城跡
標高六五〇尺/比高五〇尺
《見どころ・堀・土塁》

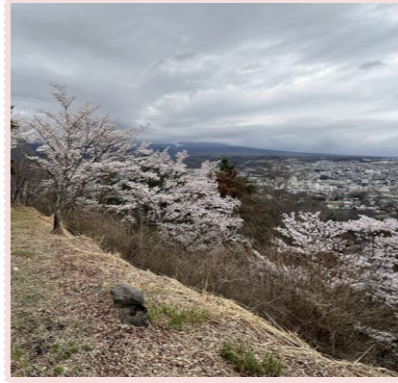
小諸城の南三〇〇尺に位置し、小諸城の前身である鍋蓋城を補強するために乙女城(小諸城二の丸付近)が築城されましたが、さらに南の守りを固めるため七五三掛城が築城されたといわれています。城跡は支城としては大規模で、大きく3つの曲輪に分かれており、主郭の注連掛に物見曲輪、猪之丸があります。また、自然地形を利用した大きな堀と一部土塁が見られます。

×掛墓地には歴代小諸藩主の墓があります。※私有地、立入禁止



④ 袴腰狼煙台
標高七八尺/比高一七〇尺(千曲小学校より)

眺望が素晴らしく、小諸市全域・佐久平方面が見渡せます。武田氏時代の狼煙台であるとの伝承があり、小諸城の見張り台を果たし、情報を伝達しました。甲斐(山梨県)の躑躅ヶ崎館から小諸城へ、小諸を経由して川中島(長野市)の海津城へ連絡の中継点であったと考えられます。

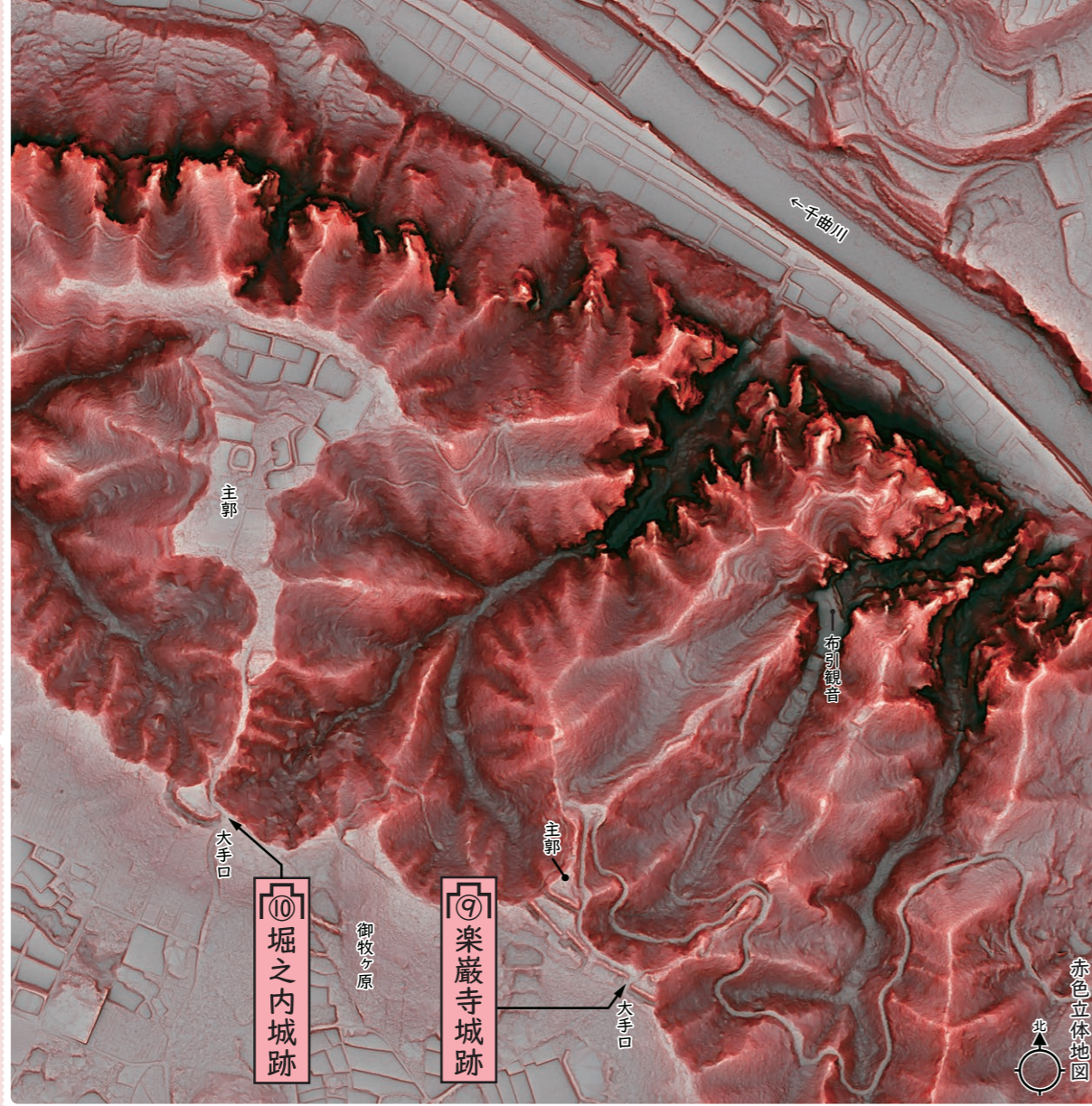


⑤ 鴉久保愛宕山城跡
標高七六二尺/比高六〇尺

御牧ヶ原の台地東北端に位置し、鴉久保集落の北の山上で小諸市街地を一望できる立地です。戦国期に布引釈尊寺が要塞化される中で物見として整備され、のちの武田氏統治下では狼煙台として使われたといわれています。現在は愛宕山記念公園となっています。

③ 与良城跡
標高六六六尺/比高五〇尺
《見どころ・堀・土塁》

現在の南城公園が与良城の城域です。南側の与良城大手門脇には佐久・甲州から善光寺方面へ通じる古道があったといわれています。交通の要衝に立地しています。一带は南城公園の駐車場や芝生広場が変わって細部は失われているものの、北側にある発電用調整池の土塁や巨大な堀は見事で、むき出しの自然地形は地質学上でも注目されている資料です。



⑨ 楽巖寺城跡
標高七六八尺/比高二三〇尺(布引下より)
《見どころ・土塁・三日月堀・丸馬出し・榊形虎口・水堀・豎堀》

布引観音釈尊寺の南西に四〇〇尺、御牧ヶ原台地の東端に位置し、釈尊寺の院坊のひとつである楽巖寺があったとされ、釈尊寺参道入り口にもあたります。布引城砦群のひとつで、村上方についていた楽巖寺雅方が守っていましたが武田氏侵攻後に改修され、食い違い土塁・三日月堀・丸馬出しなど、コンパクトながら武田氏の城の遺構が色濃く残ります。

⑩ 堀之内城跡
標高七六五尺/比高二二五尺(北山下より)
《見どころ・土塁・水堀・三日月堀・豎堀》

布引観音釈尊寺から西に六〇〇尺の御牧ヶ原台地の北端に位置し、南東四〇〇尺には楽巖寺城跡があります。楽巖寺城と同じく武田氏配下後、大規模に改修されたといわれます。布引の崖上にあるため眺望がよく、浅間山麓一帯及び上田方面まで一望できます。巨大な水堀・土塁・三日月堀など見事な武田氏の遺構が確認できます。※一部の私有地へは立入禁止



⑥ 手代塚城跡
標高六三〇尺/比高四〇尺
《見どころ・空堀》

小諸の町中から千曲川へ下る道筋にあり、栃木川の作った台地上に3条の堀と3つの曲輪を備え造られています。曲輪はそれぞれに独立しており建物があったと考えられています。小諸古城区に隣接しているため小諸城一連の施設のひとつであったといわれます。



⑦ 霧久保城跡
標高六〇八・八尺/比高三五尺
《見どころ・榊形虎口・段曲輪・腰巻石積み・石塁》

千曲川に面した段丘の小山にあり、富士見城と結んだ防衛ラインのひとつとして築城されたといわれます。富士見城と同じく東信地区では珍しい石積みみの城ですが、石は割石ではなく河原石を使用しています。

⑧ 榊形城跡
標高五九八尺/比高四〇尺
《見どころ・豎堀跡》

現在「布引温泉こもろ」宿泊施設のある敷地が榊形城跡です。千曲川左岸の急崖四〇尺ほど上に位置し鴉久保愛宕山城や布引観音釈尊寺からの道の合流地点でもあり、交通の要衝でした。

このあたり一帯は望月氏の勢力下にあった地域で、千曲川の対岸への備えとして鴉久保愛宕山城と連動し、万福寺城・楽巖寺城・堀之内城と共に布引城砦群を形成しています。